

白井市文化センターのあり方検討委員会第6回会議（概要）

- 1 開催日時 令和4年5月31日（火）午後1時30分から午後5時まで
- 2 開催場所 白井市文化センター2階かおり（中）ホール
- 3 出席者
 - (1) 委員 小川真実委員長、三浦永司副委員長、久富清敏委員、土屋博之委員、比屋根健委員、山口一郎委員、関口文子委員、山本美智子委員、中島恵委員、板橋章委員、鈴木隆宗委員、藤川敦史委員
 - (2) 欠席者 榛沢宏一委員、五十嵐真人委員
 - (3) 事務局 本間教育部長
文化センター 高花センター長、落合副主幹、鎌田図書館長、芳賀係長、岸下主査補、大塚主任主事、山田学芸員
文化センターのあり方検討支援業務受託者
株式会社シアターワークショップ 伊東、佐藤、山本、真木
- 4 傍聴者 7名
- 5 議題等
 - (1) 機能ごとの概算金額に関して（修正）
 - (2) 検討委員会及び検討委員会終了後のスケジュールについて
 - (3) 文化施設等の配置及び市制の要件に関する法令について
 - (4) 若い世代に向けた市の取組について
 - (5) 今後の文化センターのあり方に関する意見交換

（会議概要）

- ・報告事項として第5回会議で要望をいただいていた内容について、報告事項として事務局から説明を行った。
- ・議題として報告事項等に基づき委員による今後の文化センターのあり方に関する意見交換を行った。その結果、以下のとおり次回会議までに準備すべき資料等の要望が委員から出された。
 - ① ホールの利用用途とそれに必要なスペックの対応表（近隣施設での代替の可能性含む）
 - ② 本日のあり方検討に関する議論を整理した資料
 - ③ 令和2年度の財政推計額と決算額の比較
 - ④ 出生率・出生数のデータ
- ・これらについては、次回会議で説明及び議題として取り上げることとなった。
- ・次回会議では、①～④の資料やこれまで議論をもとに文化センターの規模拡大・現状維持・規模縮小・廃止等、今後のあり方についての議論を更に深めることを予定している。

(会議内容)

1 開会

2 任命状交付

令和4年度新たに委員に任命された土屋委員へ任命状交付

3 会長挨拶

4 報告事項

(1) 機能ごとの概算金額に関して (修正)

(2) 検討委員会及び検討委員会終了後のスケジュールについて

(3) 文化施設等の配置及び市制の要件に関する法令について

(4) 若い世代に向けた市の取組について

・ (1) ~ (4) 事務局より資料に基づいて説明。

・ 出された主な意見、質疑等と対応

※市職員が委員の構成メンバーの中に含まれているため、質問に対して事務局ではなく委員が回答しているものもある

(1) 機能ごとの概算金額に関して (修正)

・ 特に無し

(2) 検討委員会及び検討委員会終了後のスケジュールについて

委員 委員会の提言書と市の動きが異なった場合に、パブリックコメント等で市民がアクセスするタイミングはあるのか。

事務局 パブリックコメントは本来、市の計画を作る際に取りるものだが、今回は提言についてもコメントをいただくスケジュールを組んでいる。市が計画を作る際にはまた別段階でパブリックコメントを取る必要があるが、それは記載していない。

(3) 文化施設等の配置及び市制の要件に関する法令について

・ 特に無し

(4) 若い世代に向けた市の取組について

委員 資料4について、分野別事業の最後にプラネタリウム館のことは記載があるが、図書館・文化会館・郷土資料館について言及されていないのはなぜか。

事務局 特に子どもに特化したものとして、プラネタリウム関係の事業が載っているということ。図書館は生涯学習のところに、郷土資料館や文化会館の事業は文化芸術の推進のところに載っている。

5 議題

・ 事務局より資料に基づいて説明。

・ 出された主な意見、質疑等と対応

※市職員が委員の構成メンバーの中に含まれているため、質問に対して事務局ではなく委員が回答しているものもある

今後の文化センターのあり方に関する意見交換

●意見交換を行う前提について

委員 もし全体を改修するとなると 38 億円ほどかかり、借金をして賄うことになるので、市の他の事業にも影響が出る。高齢化が進みつつある白井市では、社会保障・福祉にもお金がかかっている。これに影響を及ぼしてまで白井市に必要な施設なのか、慎重な検討が必要。

●文化会館大ホール・中ホールについて

委員 特定天井は必ず工事しなければならないと思うが、建築基準法上、直さなければならないポイントが他にあったら知りたい。バリアフリーの観点から法規上、改修すべき箇所があったら知りたい。

委員 天井については、ホールの機能を確保するのであれば改修することになるが、学校の体育館では天井をなくすだけで安全性を確保するという方法もある。ホールの最低限の機能をどこに置くのかによって、費用のかけ方が変わってくる。バリアフリーについては、千葉県福祉のまちづくり条例の中で、ユニバーサルデザインを推奨しているが法的な強制力はない。

委員 天井のみの最低限の改修とした場合、では冷暖房は効かなくて良いのかということになる。極端な話、冬場は閉館するというような運営もありうるのか。

委員 ありうるが、年間の収入を考えると、できればより多く使った方が良いのではないかとというのが個人的な意見。予算とのせめぎ合いとなるとどうしようもないので、まずはこの文化センターのあり方、複合施設としてどうあるべきなのかをベースにこの機能は拡大しよう、維持しようということを話した方が良いのではないか。

委員 今の大ホールでどのようなコンテンツが行われているのか実績を並べてみて、この音響施設が必要なのか、野外ステージのようなものでも良いのか検討してみたいか。

委員 委託料が高額だが、見直しはできないか。

事務局 舞台業務委託費については、音響や舞台照明等の技術者を委託しており入札にもかけている。市の職員ではなかなかできないことなので、技術スタッフを雇うよりイベントがある時にだけ来てもらう契約の方が安価。舞台保守点検に関しては、本番時に事故があつてはいけないので年に 3~4 回の音響・照明・舞台設備の点検をしており、ピアノも大ホール・中ホール・練習室にあるものを点検しなければならない。これらの総合的な経費を委託料として計上しているので、必要最低限の費用だと認識している。

委員 竹案の場合では大ホールを維持するだけで約 20 億円かかる。また大ホールの利用者は高齢の方が多く、収入面も望めない。一流のものに触れたいのであれば 1 時間ほど電車に乗れば都心のさまざまなホールにアクセスして鑑賞できるので、そうではなくコミュニケーション・市民との交流という点を重視しても良いのではないか。ピアノをエントランスに置いて学生に弾いてもらう等した方が、音楽に触れたり、図書館にきた帰りに家族で鑑賞していただいたりできる。

委員 中学校では合唱コンクール・吹奏楽部の発表会、小学校でも同様の発表会でよく利用している。学校の合唱・吹奏楽レベルでどこまで音響設備が必要なのか分からないが、ホール

で発表するのは非常に子供たちが楽しんでおり、ホールでの発表へ向けて一生懸命頑張っている。学校としては少なくとも学校の発表会が出来るレベルで存続してほしい。

委員 大ホールと中ホールがあるので、一方は舞台設備を残し、一方はなくすということができないか。

委員 利用状況を鑑み、どちらかに集約することはできないか。

事務局 中ホールは比較的安価で使いやすいというお声をいただく。大ホールは 800 席ほどあり設備も整っている一方、中ホールに比べ敷居が高いので大規模な発表会・集会での利用に適している。

委員 設備的な観点からこの人たちは招聘できないというレベルは文化会館で持っているのか。

事務局 非常に極端な例でいうと、アイドルのコンサートなどは客席数が少なすぎるので興行として成り立たない。大きな興行を行うには 1,200~1,300 席ほどは必要。

委員 白井市が若い世代・子育て支援を標榜するのであれば、これを一つの施策として考えるのはいかがか。

委員 現状の文化ホールより設備のレベルを下げると、維持費は下がるのか。またエントランスでのピアノ演奏等は可能なのか。

事務局 設備の数が減れば保守点検する項目も減るので、想定金額的には下がると言える。エントランスでピアノが弾けるかどうかについては、できないことはないが、ピアノの移動が難しい。舞台上にはすぐに出せるが、エントランスまでの移動距離・段差を考えるとすぐにはできない。

委員 大ホールの利用は学校利用を除けば土日の発表が多い。月曜日だけでなく火曜も休館してしまう、極端に金土日しか開館しない、週の休館日を増やす手もあるのではないか。

委員 大ホールをなくし、中ホールのみでも良いのではないか。白井市の人口は 6 万人なので中ホールの規模は適している。学校利用に関しても、柏・鎌ヶ谷・松戸に大きなホールがあるので、今後の税制で負担を強いてしまうのであれば他市の施設を利用することもひとつの手ではないか。

委員 中ホールは先生の研修などで使うが、児童・生徒が使うのは大ホール。近隣市の施設での代替は考えづらく、学校の体育館でやむを得ず、となる可能性は高い。バス移動の予算・時間が非常にかかり、どの市でも市内団体が優先なので予約が取りづらく金額も 3 倍ほどかかる。

委員 市役所にも会議室はあるので、講演会であればそちらで対応していただき、中ホールのスペースは収益を上げる活動に使えないか。

委員 文化センターの他にも市の施設がある。仮に文化センターの施設を縮小することでスペースが空いたら、その施設を一部文化センターに入れることによって、そちらの維持管理費を浮かすということもできるのではないか。

委員 大ホールについては機能を見直し、中ホールについては限りなく廃止に近づいた見直しを行い、他の利用方法を探っていくということが良いか。もちろん少数意見も付記する。

●図書館について

委員 印西市は図書館を民営化するという話を文書で見たような覚えがあるが、白井市でも同様の動きはあるか。

事務局 指定管理者を入れるという計画は今のところはないが、運営方式はその都度検討するように指示は出ている。指定管理者を入れたから安くなるとも限らない。

委員 アンケートに、公民館でも図書館を借りることができるかとあるが本当か。

事務局 白井市の場合は、公民館の図書室を図書館と同じ貸し出し形式で運用している。図書館の分館ではなく、それぞれ公民館の指定管理者が運営している図書室を市民の方に都合が良いように運用している。市内5館ほど、本の貸し借りが出来る。

委員 自宅の近くにある公民館を使ってもらうことによって、文化センターの図書館の機能を限定することは可能か。

事務局 よく利用していた世代の方々は交通手段が変わったり、足腰が悪くなるなど自宅近くでピックアップすることが多くなった。ただそれだけで図書館業務が十分かという点と違う。学校図書館や市内施設への貸し出しや市内に書店がないので本を見に来る方もおり、居場所としての機能も果たしているように思う。

委員 盗難が多いというのは本当か。

事務局 一時期は非常に多かった。新刊図書は書庫に入れる等の対応をしている。チップを入れるなどして盗難防止はできるが、億単位のお金がかかってしまい、資料保存の期間が経った20年後に廃棄するとなるとさらに採算が合わない。かけたお金に対して盗難数がどれくらい見合うのかという点と現状では盗難の方が何とか少ない状況で、館内の見回りをしたり、県内の図書館から借りたりしている。

委員 児童コーナーがうるさいという意見があるが、これはどういうことか。

事務局 防音の作りにはなっているが子供の声が響いてしまうのだと思う。そもそも、昔は子供の声が多少してもうるさいと言われることがあまり無かったが近年は苦情が多く寄せられる。エントランスでのピアノの話もあったが、時間帯を決めて取組みを行っている図書館はあり、静寂を好む人がサイレントルームに行くという図書館もある。個人的には社会的許容の問題かと思う。

委員 図書館の開架を見直し、公民館の図書室に分散させても良いのではないか。半開架として基本は貸出業務、どうしても見たいときは閲覧できるがスペースを限定させるということもありうるのではないか。

事務局 図書館のシステム的に電算機器の中核が図書館にあるので、完全に廃止すると問題がある。

委員 コワーキングスペースのような形で図書館を利用する方は増えてきている。交付金を使ってWi-Fiが入れられたので持ち込みパソコンで作業する方が見られる。レイアウトによって、コワーキングスペースを作ることは可能だと思う。

委員 図書館棟の1階のトイレは図書館内の1ヶ所だけなのか。

事務局 トイレについては、設計時に図書館の外に配置してほしいと要望していたが、図書館内に入口がある構造になった。文化会館の利用がある際は開場までは中に入れず、音漏れがすると契約者の方とトラブルがあるため会館側のトイレには入れないと聞いた。お手洗い自体も30年前のものなので、多機能トイレも現在一般的となっているものよりも狭く、改修が必要。

委員 現時点での図書館についての方向性は、慎重な検討とともに必要な改修は行うが、方向性としては縮小もやむなしということで良いか。

●郷土資料館について

委員 展示スペースと収蔵スペース・バックヤードいずれも不足している印象。電動書架のような形で収納できないか。

事務局 改修の話は動いていないので、工夫して収蔵している状況。

委員 郷土資料館を廃止するのではなく、文化センター外にも資料を出して収蔵機能と展示機能を分けるという考え方が成立するのか検討していただいた方が良い。

事務局 別の建物を建てるとなると新しく検討しなければならなくなるのですすぐにはお答えできないが、収めきれなくなったものを別のどこかに移して収納している例は多数ある。

委員 収蔵機能・展示機能とともに学芸員の調査・資料研究の機能もあると思う。また、太陽光や湿度に注意しなければならない資料はそれなりの設備がある環境が必要。展示については、市役所・公民館・図書館の一角をローテーションして運営している例もあるので、資料（収蔵）部分と学芸部分を分離させるというのはいりうらと思う。

委員 委員会としては、郷土資料館については廃止することなく、資料機能と学芸機能に分けて検討するということが良いか。

●プラネタリウム館について

委員 プラネタリウムは、グレードアップの可能性はないのか。近年のプラネタリウムは精度が非常に高くなっていると聞いた。

事務局 機器の入れ替えは平成 27 年に新しい光学式のプラネタリウムを導入したので、開館当時の平成 6 年に入れたものよりも、良いものになっている。グレードアップを考えるとしたら次の買い替えの時。

委員 プラネタリウムの利用料はいくらか。

事務局 現在の料金が市内の大人が 280 円、市内の高校生以下が 110 円、市外の大人が 350 円、市外の高校生以下が 160 円。市内の学習の投映は 100%減免、市外の学習投映も全額ではないが減免している。

委員 どの程度値上げ・受益者負担にしたならプラスマイナスゼロに近づくのか。近隣の自治体でもプラネタリウムを導入しているところはあり、その中で白井市がどのように独自色を出せるのか。

事務局 白井のプラネタリウムはプログラムが多いことで有名。例えばあなただけのプラネタリウムとして、ドームを 30 分間貸し切りにし、その間はその人の見たい星空を投映するというプログラムもある。一昨年からは 1 時間 3 万円でドームを貸し切りにしてビデオ撮影をしたり、YouTube に流すために中で演奏したりするというプログラムを始め、3 件の申し込みがあった。料金については、市の基準、人数・予算・事業費の計算式に当てて金額を出していて、86 席が埋まった場合に運営できる料金として設定されている。近隣施設との相場もあるので、急激な値上げは難しい。

委員 人件費を加えると 2,592 万円が年間の運営費で、収入は 180 万円。プラネタリウム館の職員が一生懸命やっているとはいえ、採算を合わせるためには相当な値上げが必要になる。また、10 キロ圏内にも 5 件ほどプラネタリウムがあり、市民アンケートでもプラネタリウムを使う頻度について数年に 1 回という回答が 78.1%、年に 1 回以上使う方は 15%ほどだ

った。これらのことから、白井市に必要なかを検討が必要だと思う。

委員 採算性について言われると厳しいが、学校では理科の授業で年に何回か使っている。実際の星空が見えるので、学習効果は高い。

委員 もし縮小・廃止になった場合、学校教育に何かしらの措置を考える必要があると思う。校外学習に行くための予算を付けるなど。

委員 幼稚園も年に1回しか利用しないが、子供たちのその後の行動を見ると明らかに星の図鑑を開くようになるので、格段に効果があると感じている。幼稚園として見に来た子供たちがもう1回見に来るサイクルを作る工夫を、センター全体として行えたら良い。

委員 運営で黒字にならないことは理解しているが、プラネタリウムがあるということは白井市の宣伝・売りになる。

事務局 予算の話が出ていたが、リース費用の支払い期間10年のうちの6年分を終え、あと4年が残っている。前の機器は20年ほど使えたので、支払い終了後も約10年は使えるのではないかと。パソコンやプロジェクターは別途5年ごと程度で買い替えるとは思いますが、大きな支払いはあと4年で終わる。

委員 何年後あたりから黒字に転換するのは試算出来るか。

事務局 黒字に転換するというのは難しい。もし黒字を目指して行くならば学校利用でも料金を徴収する必要が出てくるが、学習・教育施設なので黒字を目指すというのは施設の趣旨とは異なる。

委員 黒字を目指すのではなく、10年間で重なった赤字が後半の10年間でどれだけ減るかを知りたい。

事務局 ランニングコストについては平成31年度のもので見ているが、ここから賃借料を差し引き、歳入面を考慮した値は時間をいただければ出せる。

委員 委員会の結論としてはなるべく存続を考えていくという方向で良いか。

●その他

委員 白井市内にある別の施設・実施しなければならない業務をこの施設に統合するという考え方はいかがか。

委員 その様な検討は今後、随時進めていく必要があると認識している。

委員 委員長がまとめられたような趣旨の文章が箇条書き・両論併記でも良いので見られる状態だと、話がしやすい。

事務局 今日お話いただいたような議論を、こちらで表のような形にしてお出しする。次回はそれを確認しながら、もう少し最終的な話に向けて議論を深めていくということではいかがか。

6 その他

委員 令和2年度の決算が出ているはずなので、財政の推計額と決算額がどうだったのか資料をお願いしたい。

委員 承知した。財政推計は財政調整基金の残高を見ている。令和3年度末で25億円と推計上見えていたが、実際は21億4,000万円ほどで、計画より3億4,000万円ほど低い。また平成30年度と比較すると、3年間で5億円ほど減少しており、3年連続赤字になっている。つまり貯金に頼って財政運営していることになる。

委員 出生率・出生数のデータをいただけないか。令和2年度は75万人の出生数だったと言われており白井市の割合を知りたいということと、国立社会保障・人口問題研究所が出している2045年までの出生数のデータよりも実際の減少の進行が早いので、白井市も同様なのか気になっている。

委員 承知した。白井市も令和2年度までは人口増を見込んでいたが、実際は平成30年度頃から減少しており、平成30年度に比べると1,000人ほど減少している。出生数も300人を下回っており、これまでは引っ越してくる社会増があったがニュータウン事業が終わりこれも不透明である。

7 閉会

以上